

連絡先：

Lynn Blenkhorn

Feinstein Kean Healthcare

Lynn.Blenkhorn@fkhealth.com

617-761-6766

この新しい世界規模の実態調査は、喫煙を根絶するための重要な問題や、それに必要な課題とギャップを指摘します。

～ 調査では様々な習慣、人口統計が明らかになり、喫煙者の認識には革新的なソリューションが多様な文化と経済状況に応じて必要になります～

2018年3月19日 ニューヨーク州、ニューヨーク市 - [たばこの煙のない世界のための財団](#)は世界喫煙実態調査の結果を発表します。それは、喫煙者自身や喫煙者が喫煙をやめようとする際に直面する課題や経験への理解向上を促すものです。この調査では、喫煙による害に対する認識、タバコ、代替製品、ニコチンに対する認識がどのように禁煙を促すかについてもテーマにしています。このデータは、喫煙の根絶に向けた研究の発展を形作り、多様な文化や経済状況に応じた最善のソリューションを策定することでしょう。

2018年喫煙実態調査が対象にしたのは13カ国の1万7421人の喫煙者、元喫煙者、非喫煙者です。ブラジル、フランス、ギリシャ、インド、イスラエル、日本、レバノン、マラウイ、ニュージーランド、ロシア、南アフリカ、英国、米国。並行して、7つの国（フランス、ギリシャ、インド、ニュージーランド、南アフリカ、英国、米国）では、定性的なフォーカスグループが実施され、定量的な結果だけでなく、定性的な結果も調査には含まれています。この調査は、財団が選定した総合コンサルティング・研究機関であるカンターパブリックによって行われました。

主な結果は次のとおりです。

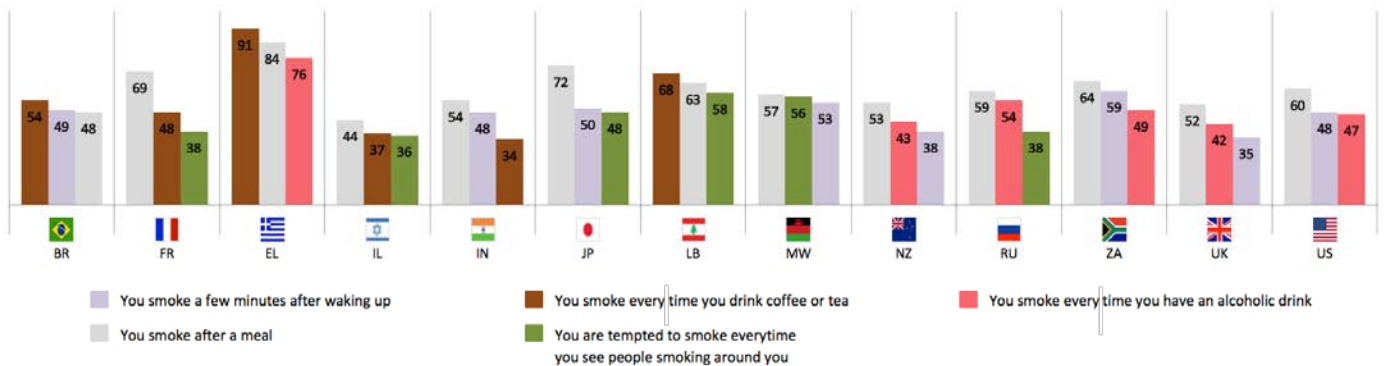
1. 喫煙は独立した習慣ではなかったということです。喫煙者は喫煙を、食事、飲酒、社交といった生活の基本的な楽しみと深く密着していると考えています。現在実施されている禁煙方法は、これらを考慮に入れていないため、禁煙が長続きしていません。
2. 喫煙者は、喫煙が健康に害であることを認識しており、その多くの方が非喫煙者よりも自分の健康状態が悪いと考えています。しかし、だからといって医療機関と積極的に関わって、禁煙方法や健康被害が少なくなる解決方法を相談することをしません。喫煙者に対する取り組みを強化した医療システムと、医療従事者が、喫煙者の禁煙に役立てられるような、より効果的なツールが求められている。
3. 喫煙者の間では、喫煙の相対的な有害性および有害性の少ない代替策に関する混乱が生じている。「ニコチンを求めてタバコを吸い、タールによって死亡する」といわれるが、ニコチンのリスクに関しては依然としてかなりの誤解があり、そのような誤解が、喫煙者の禁煙へのモチベーションやリスクの低い代替製品を使ってみようとする努力に影響を及ぼしている。

「この調査によって、世界中の何十億もの喫煙者が禁煙への行動を起こし、これほど多くの人が喫煙をやめられない複雑極まる理由に関する有意義な議論を巻き起こり、喫煙者の禁煙と大幅なリスク軽減に役立つ効果的なコミュニケーションと対応が急務であることが明らかになることを望んでいます」。こう語るのは、「たばこの煙のない世界のための財団」の理事長、デレク・ヤック博士だ。「喫煙を始める理由に隠されている重要な促進因子、また禁煙や禁煙のモチベーションを妨げる障害に対する理解を深めることによって、多くの人々が燃焼式タバコ中毒の悪循環に陥り健康に影響を及ぼすのを軽減するのに役立ちます。」

世界規模の調査から、具体的に次のようなことが明らかになった。

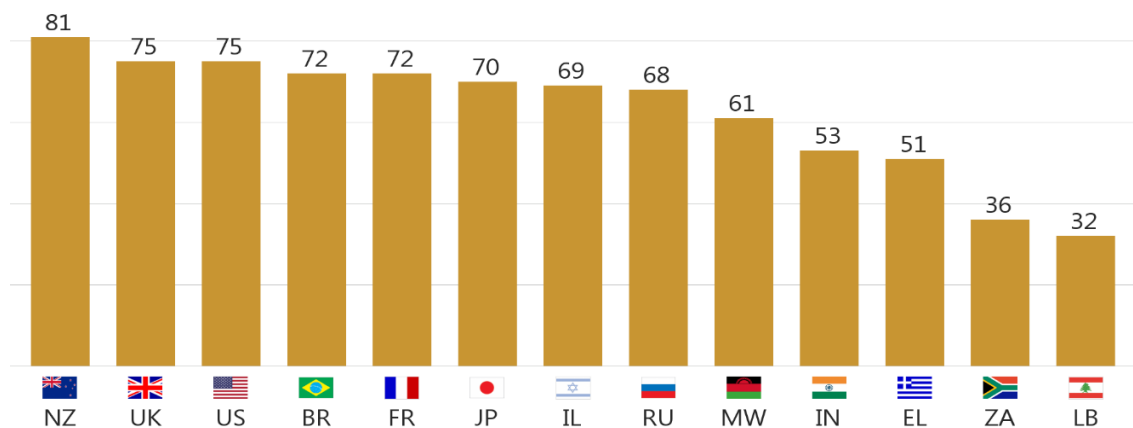
- 喫煙は、起床、食事、コーヒー/ティータイム、社交といった日課と密接に関連している。(ブラジル、ギリシャ、レバノンなどの)一部の国では、多くの場合、コーヒーやお茶を飲みながらタバコが吸われ、他の多くの国では食後にタバコが吸われる。

次のような状況のうち、自分に当てはまるものがありますか？ (%、国別上位三位の回答)



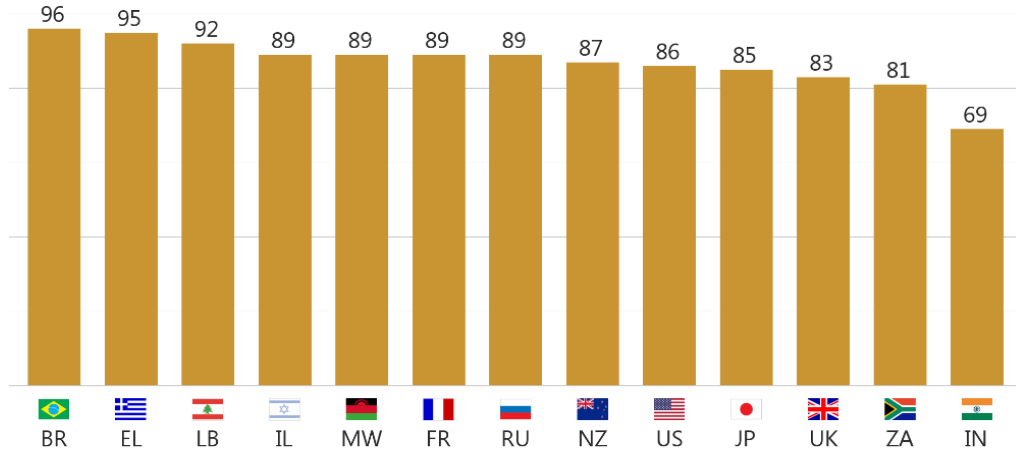
- 大部分の国では、禁煙したいという強い願望がみられた。

禁煙しようと試みたことがありますか？ (%、「はい」の合計数)

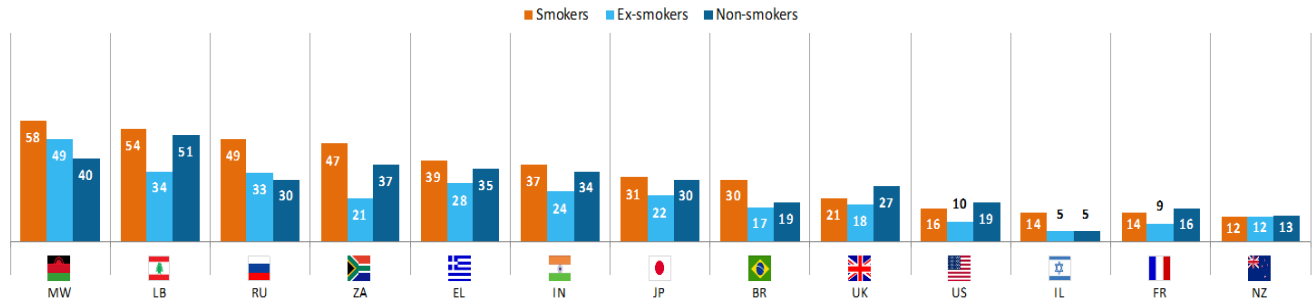


- 調査対象となった大部分の喫煙者は、喫煙が健康に害を及ぼすことを認識し、非喫煙者に比べて健康的でないことを自己報告していたが、非喫煙者に比べて主治医に診てもらう回数が少なかった。

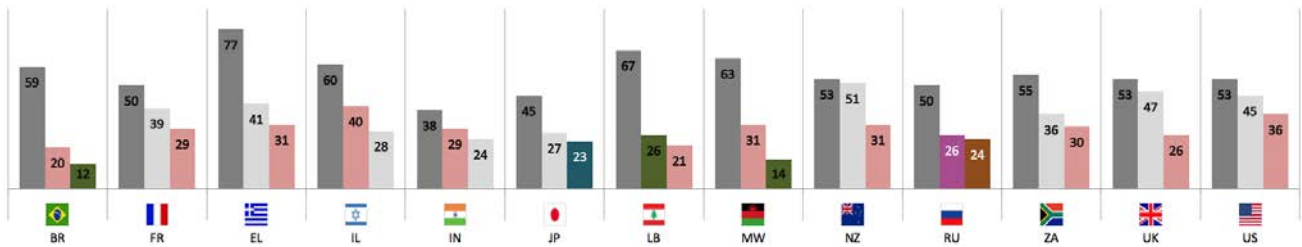
次の記述にどの程度、賛成または反対しますか？
喫煙は体に有害である。(%, 「賛成」の合計数)

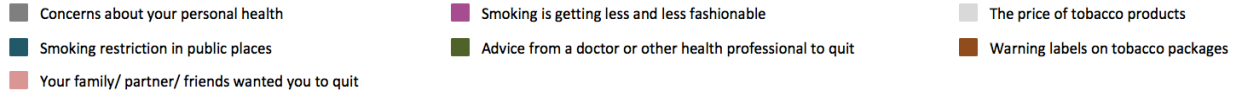


過去12か月間に何度医師または医療提供者に診てもらいましたか？
(% 一度も診てもらっていない)

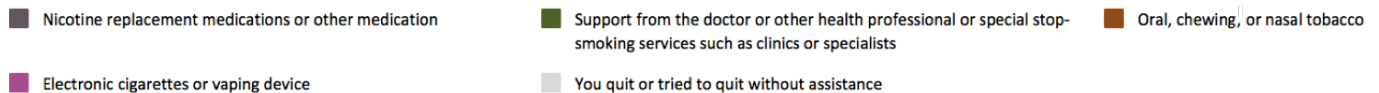
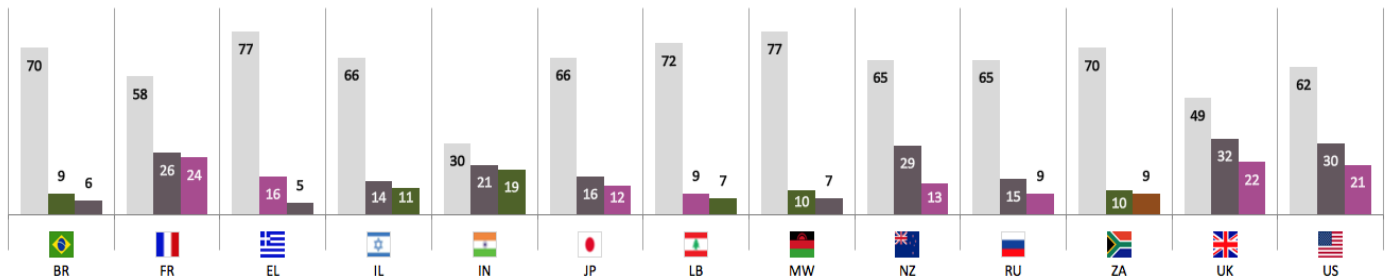


- 喫煙者が禁煙または禁煙を検討する主な動機は健康不安である。





- 調査対象となった大部分の喫煙者は支援を得ずに禁煙を試みているが、支援を求めた喫煙者は多くの場合、まずニコチン代替療法および処方薬に切り替えている。一部の国（フランス、ギリシャ、日本、レバノン、ニュージーランド、ロシア、イギリス、アメリカ）では、喫煙者はタバコの量を減らしたり禁煙したりするのに電子タバコその他のニコチン置換デバイスを使用したと報告している。



研究のその他の結果は下記のリンクで閲覧可。

<https://www.smokefreeworld.org/sites/default/files/uploads/derek-yach-press-conference-presentation.pdf>

以下のリンクで高画質画像による閲覧

可。 https://www.dropbox.com/sh/0bw9ckaac0h7cu9/AAB1ihaAu9llr_aFdaxZq60ia?dl=0

「喫煙者一人ひとりの独自の体験と苦しみに対する理解を深めることにより、各人の禁煙までの道のりへのサポートを改善することができるということがデータにより明らかになっています。個別化医療が進む今日、世界中の喫煙者を均一の集団として一くくりにするのではなく、喫煙者一人ひとりが自分の状況に最も合った方法を選択し、さらに重要なことは、喫煙による害、疾患、死亡を低減することができる幅広いソリューションの開発、活用を開始することこそ理にかなっているといえます。」とヤック博士は述べる。

「たばこの煙のない世界のための財団」について

当財団は、独立した民間財団であり、第三者の管理や影響を受けずに運営されています。当財団はフィリップモリス・インターナショナル社から財団創設の資金提供を受けています。当財

団は喫煙と喫煙の健康に与える悪影響を撲滅し、世界的なタバコの需要減少の影響に取り組む医療、農業、科学の各方面の研究を支援しています。

###